

自動車部品製造のアイコクアルファ（本社福沢市祖父江町、樋田克史社長）は、荷物の移動作業を支援するハンドクレーン「ラクラクハンド」事業を強化する。5月に祖父江町で稼働した新工場「祖父江ラクラクファクトリー」をフル活用。課題だった大型機の生産体制を整えたほか、展示場も充実し、販売増につなげる。2037年3月期に、同事業の売上高を現状比で3割増の50億円に引き上げる考えだ。（鈴木隆宏）



展示機を増設したラクラクハンドの展示場

ハンドクレーン事業強化 大型機の生産体制拡充

組み立て工程で使用する「スタッカー」と呼ぶ柱状の器具を3基増の15基に増設。1基当たりの持ち上げ能力を1トから1・5トにまで引き上げ、大型機でもスタッカーを使って組み立てられるようにした。これにより、スタッカーが空くのを待つ時間をなくしたほか、大型機でも高効率で組み立てられるようになった。

また展示場の広さも従来比で約2倍に拡大。設置する台数も4台増やして14台にした。他社では仕様書を顧客から渡され、そのまま製造するケースが多いが、アイコクアルファでは顧客からの相談にきめ細かく応じてから生産工程に入る点の特徴。展示機の増設により、実機を見せながら提案できる体制を充実している。

加藤吉久常務は「他社にはできない技術がついてきている。今後も差別化をして、顧客に選ばれるようにしていきたい」と意気込んでいる。

